病と老いと死、とその後の「いのち」

東京の新宿区にある、カトリック系の真生会館で行われた6つの講話シリーズを単行本化。

各シリーズのテーマは、「いのち」、「死を想う」、「大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために」、「わたしたちの生の営みから喜びや希望を奪い取ってしまう闇」、「キリスト教が理解する終末」(伝統的な教義の終末論と別視点で)、そして最後のテーマは「「聖霊」。

「いのち」を危機にさらす、現代のさまざまな問題・深い闇を、ときに具体例も挙げて鋭く指摘。オンリーワンとしての一人ひとりが、存在レベルで望む、究極で共通のことも述べる。その願望が満たされないことが、諸問題・闇と深い関係にあることも説く。

著 森　一弘

1938年横浜生まれ。1967年司祭叙階。1985年司教叙階。2000年まで東京大司教区補佐司教を務める。2023年死去。

著書に『人生を支え、老いを照らす光』『あなたにとって神とは?』『世界と日本と民主主義のありようを考える』『これからの日本のゆくえ』『人はみな、オンリーワン』(女子パウロ会)、『教皇フランシスコ ―教会の変革と現代世界への挑戦―』(サンパウロ)、『「今を生きる」そのために』(扶桑社)他がある。

危険にさらされている「いのち」についての考察
1「命」と「いのち」の違い　2「いのち」には設計者がいる　3 生きているものは、すべてオンリーワン
4 オンリーワンとしての「いのち」を脅かすもの

死のかなたに何があるのか、虚無か、いのちの輝きか
1 社会の営みから神が消え去ってしまった？　2 死を自分の人生に取り込んでしまう人々
3 なぜ、死を選び、決断するのか

大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために
1「流される」のメカニズム　2「操られる」のメカニズム　3 操られてしまう(しまった)人　4 キリストの生き様

キリストの十字架を見つめて　闇の中に光を見いだしていくために ―闇は、人生の一部、旅の道連れ
1 闇の冷酷さ、残酷さ　2 人間としての根底を揺さぶる闇　3 人間の幸せへの歩みを妨げ、深い闇を与えるものは……

病と老いと死、とその後の「いのち」 ―キリスト教が理解する終末
1 死についての考察　―カトリック教会の伝統の中での終末の受け取り方

聖霊について
1「霊」について理解することの難しさ　2 聖書の世界の「ルーアッハ」の意味とその宗教的発展

定価1,540円（1,400円＋税）B6判　196頁　並製　ISBN978-4-7896-0839-8　C0016